

共利群生の もりをめざして

2021
第18号

FREE
PAPER



新型コロナウイルス感染症により、尊い命を失われた方々とそのご遺族の皆さまに謹んでお悔やみ申し上げます。また、感染症に罹患された皆さまをはじめ、少なからず被害を受けた方々に心よりお見舞い申し上げます。

昨年、緊急事態宣言が発出されてからは高野山奥之院にも人影がありませんでした。

秋頃からは感染症対策を施された参拝者も多く見られるようになりましたが、まだ例年の賑わいにはほど遠い状況です。それでも遠く高野山に参拝するリスクを避けたいという多くの方々から電話による献木の申込みを頂戴しました。お大師さまに感染症終息の祈願をするとともに、高野霊木でできた「五色腕輪念珠」を身につけてお守りにしたいという方がほとんどでした。多くの皆さまがさらに簡単に献木のお申し込みができるように、金剛峯寺山林部ではホームページ上で決済できる申込みサイトを開設しました。これにより、さらに多くの皆さまがお大師さまを身近に感じられるようになれればと願っています。

新型コロナウイルスに翻弄される日々ですが、高野山から皆さまのご健勝を心からお祈り申し上げます。

総本山金剛峯寺 山林部長 山口文章

金剛峯寺では令和2年5月3日に新型コロナウイルス感染症終息祈願法会が執り行われました。法会は右のQRコードでご覧頂けます。



高野山の豊かな森を後世に



高野霊木と五色の霊玉により、腕輪念珠を作成致しました。
男女兼用



献木記念品五〇〇セット
フリーペーパー読者限定
五膳入り箸セットのご案内

子供たちが林業体験の中で間伐したヒノキを使って作成した箸セットです。昨年、ご好評頂きましたので、今年も準備致しました。

五〇〇セット限定でなくなりしだい終了となりますのでご理解願います。

このフリーペーパーは献木運動にご協力頂いた皆さまに送付しています。

一通信欄

皆さまから頂きました献木志納金は粗山環境の維持のため、大切に使用させて頂いております。令和3年度から金剛峯寺ホームページでの献木の受付を開始しました。献木の申込がより手軽に出来る事となりましたので是非ご覧下さい。この会報は春と秋の年2回、献木にご協力頂いた方にお届けしております。令和2年秋についてはコロナウイルス感染症の影響により発行出来ませんでした。お詫び申し上げます。春の会報については献木振替用紙を同封致します。今後ともご協力頂きますようよろしくお願い致します。

お問い合わせ
〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 金剛峯寺 山林部
TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640
E-mail sanrinka@koyasan.or.jp
※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報下さい。

《献木について》
献木一口二、〇〇〇円
【記念品のご案内】
○一口(二、〇〇〇円)
※どちらかをお選び下さい
・限定箸セット
・五色腕輪念珠二連
○五口(一〇、〇〇〇円)
・高野霊木カレンダー一本

高野山真言宗管長 総本山金剛峯寺第四百十四世座主

葛西光義大僧正 狛下御染筆



高野霊木干支カレンダー短冊付(限定 一、〇〇〇本)

※尚、カレンダーの販売は代引でのみ行っております。

価格 三、五〇〇円 (+送料)

念珠が箸セットのどちらかをお選び下さい。

献木受付はこちらからご覧頂けます。

会報バックナンバーは、こちらからご覧頂けます。



『献木お返し先』
振替用紙をご送付致しますので、山林部までご連絡下さい。
郵便振替口座(大阪) 00930-6-61758
ゆうちょ銀行:〇九支店 当0061758
加入者 名:宗敎法人 金剛峯寺山林部

参 与 会

奥之院の参道には多くの大木が林立し、その樹齢は七〇〇年を超えるものもあっていわれています。

その中でも優良な形質を持つ物は特別母樹林として国の指定を受けており、それらを護り続ける為の整備事業を高野山真言宗参事会のご協力のもと山林部で実施しております。

令和二年度はコロナウイルスの影響で多くの事業が自粛することとなりましたが、高野山に来られる皆さまに危険と思われる木の伐採だけは早速に行う必要があると判断し、実施致しました。

この度樹齢四〇〇年を超えるであろう大木を伐採することとなりました。この木は根元の大部分に腐植が見られ、台風などで倒木した際には甚大な被害を及ぼす危険があると判断されました。作業には五日を要し、「空師」と呼ばれる職人が頂上まで登り、少しずつ切り下ろして作業を行いました。

このような事業を是非皆さまに知って頂きたく、作業の目録カメラ映像(頂上からの伐採作業風景)を撮影しました。この映像は参事会のホームページからご覧頂けます。

山林部ではこれからもこの聖域を護つて行くために努めて参りたいと思います。



根元部分



伐採作業(頂上から)

参加会HP

参加会では活動報告などの参字をfacebookやinstagramに投稿しています。こちらからでもご覧頂けます。

天皇陛下御即位記念分収造林

令和天皇陛下の御即位の慶祝として、高野山国有林の約一ヘクタールを「天皇陛下御即位記念分収造林」として整備することとなりました。

作業は令和二年九月から始まり、新しい森が産まれました。これから令和の時代と共にこの森が緑豊かに育まれていくことを願い、維持管理を行って行きたいと思っております。

この森にはスギ・ヒノキ・アカマツ・キハダが植栽されました。



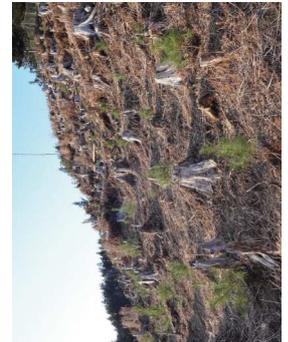
防獣ネット設置



苗木(ヒノキ)



地ごしらえ



植栽

さくら

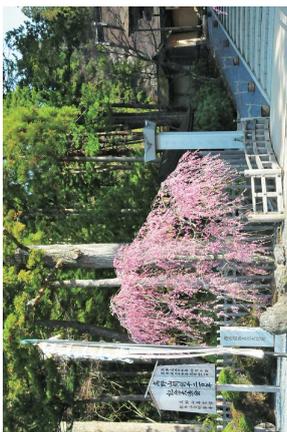
春の花と云えばサクラを思い浮かべる人が多いと思います。卒業、入学、旅立ちの花です。令和二年は新型コロナウイルスの影響で日本全国が自粛モードとなり、例年と違い大勢が集まつての花見も出来ませんでした。高野山もサクラの咲く頃は多くの参拝者が来られていましたが、大勢少なく寂しい春でした。令和三年こそは新型コロナも沈静しサクラも多くの人に愛でてもらえる事を期待します。

さてサクラは明治時代まで高野山では大変貴重な財源の一端を担っていました。それは鎌倉時代から明治にかけて高野版で多くの出版物を制作、販売をして高野山維持の財源としていました。その板木の材質こそがサクラでした。日本に於ける板木の技術は中国 宋時代に請来し、始め京都版、奈良の春日版が開版され続いて高野版が制作されました。板木の材質は中国では桑や梨の木でしたが日本においては殆どサクラ材を使用しました。高野山の開版は建長五年(一一五二)の阿闍梨快賢に始まり、やがて鎌倉幕府や御家人の安達一族等の助力が加わります。初代秋田城介安達泰盛は源実朝の善提のために金剛三昧院を建立したと伝えられ高野人尊とも呼ばれました。最後は高野山で亡くなっています。また孫の秋田城介安達泰盛は祖父の意志を継ぎ高野山僧侶の寛教の町石建立などを援助し、高野山の整備発展に尽力しました。特に尽力したのが高野版の刊行でした。しかし安達一族も幕府の権力争いに巻き込まれ、頼朝の御代にお家断絶となりますが脈々と板木製造は続けられ、やがて桃山、江戸時代には我が国、寺院印刷史上最も隆盛を極めるようになります。

今度高野山に来られましたらサクラの花だけ愛でるのではなく、サクラ材が如何に日本の印刷文化に貢献し、教育発展の役目を果たしていたかという歴史を振り返ってもおもしろいと思います。また奥之院御所芝の阿闍梨に多層塔が二基有り、これが安達泰盛の供養塔に伝えられています。



高野版板木



しだれ桜

大元帥御修法 護摩木

令和二年十月二十三(日)・十月三十(日)迄

大元帥御修法は古来より天皇陛下の御即位に際して執り行われてきた真言宗の大法です。

昭和から平成にかけては諸般の事情から執り行われず此の度、令和の御代になり九十有余年ぶりに執り行われました。

その法会では護摩供があり二十一座を動めます。

その際の護摩木としてニガキ(高野山ではキハダと呼ばれています)、ハゼの二種類の水を使用し、山林部において材木を準備致しました。

ニガキは調伏護摩供、ハゼは息災護摩供で使用しました。



ニガキ



法会(お謙り)



ハゼ